



令和6年度 伊豆市立熊坂小学校 グランドデザイン

【静岡県教育振興基本計画】

有徳の人

- ・個人として自立した人
- ・人との関わりを大切にする人
- ・よりよい社会づくりに参画し行動する人

【学校教育目標】

気づき 考え やりぬく子

【重点目標】

自ら行動する子

【伊豆市の教育】

未来を創造する 伊豆人づくり
《目指す子ども像》

- ・夢や希望をもっている子ども
- ・心豊かに生きる子ども
- ・たくましく生きる子ども
- ・「伊豆っ子宣言」に基づき、ふるさと伊豆市のよさに気づき地域の一人としての自覚をもつ子ども

【キーワード】 まずは「受容」

温かみのある学校づくり

主体的に取り組む楽しい・分かる授業づくり

地域の教育力、物的・人的資源を活用する学校づくり

1 ステージごとを振り返り、改善策の検討

《6月・10月・1月・3月に実施》

- 〈児童〉各ステージの取組の振り返りを実施し、次のステージに向けての目標を決める。
- 〈教職員〉各ステージの教育活動を振り返り、今後の取組に向けての改善策を各指導部で検討する。

2 学校評価結果の分析と改善策の検討

《8月・1月に実施》

- 児童・保護者・教職員による学校評価の結果を受けて、目標達成に向けての手立てについて、指導部長会、職員会議で検討し目標、手立ての在り方を再考する。
- 《2月に実施》コミュニティー・スクール運営協議会で検討・提言

- 子どもの居場所がある学級づくり
- 子どもの主体的な活動を促す
特別活動
- 親身になって関わる生徒指導

《主な取組》

- (1) 子ども、教員による「いいこと見つけ」の実施
- (2) 年5回のいじめ・生活アンケート、年3回教育相談の実施
- (3) 児童の手による行事、縦割活動、委員会活動の運営
- (4) 人権感覚を大切にした生徒指導
- (5) 年2回の保護者対象の教育相談
- (6) 月1回の保護者来校の場を設定
《成果指標(7月・12月)》

- 〈児童〉「楽しく学校生活を送っている」 90%以上
- 〈保護者〉「子どもは学校生活を楽しんでいる」 90%以上
- 〈教職員〉「子どものために教育活動を工夫している」 80%以上

- 主体的、対話的で深い学びの追求
 - 活用できる知識、技能の習得
 - 授業力向上を図る職員研修の実施
 - タブレット端末の効果的な活用方法の研究の実施
- 《主な取組》

- (1) 中・高学年に教科担任制の導入
- (2) 毎授業内での「聞く」「書く」「話す」場面の設定
- (3) 教員が個人テーマを設定し、年1回以上の公開授業を実施し、事前・事後研修の充実を図る。
- (4) 授業内で発達段階に応じたタブレット活用能力の育成を図る。
《成果指標(7月・12月)》

- 〈児童〉「授業が楽しい」 90%以上
- 「授業内容がわかる」 90%以上
- 〈保護者〉「授業を楽しんでいる」 90%以上
- 「理解している」 90%以上
- 〈教員〉「工夫して授業をしている」
A:80%以上

- 社会に開かれた教育課程の実現
 - コミュニティー・スクールの積極的運用
 - 地域の「ひと・もの・こと」をつなぐ
 - 伊豆市の学校で学んでよかったと思える工夫した教育活動の実践
- 《主な取組》

- (1) 地域の教育力、人材を有効活用
- (2) ワークショップを活用した保護者・地域との意見交換・交流
- (3) 地域の特色、地域とのつながりを生かした教育の推進

《成果指標(7月・12月)》

- 〈児童〉「地域の人と一緒に楽しく学んでいる」 95%以上
- 〈保護者〉「学校は地域人材や資源を活用した教育活動を行っている」 90%以上
- 〈教職員〉「地域人材、資源を積極的に取り入れた活動を行った」 90%以上

協働ができ信頼される教職員集団

1 使命感とやりがいをもつ

- ・静岡県教員育成指標に応じた力量をつけるために学びの継続を図る。
- ・自己研鑽を積むために研修会へ積極的に参加する。

2 チーム学校体制の確立を図る

- ・教育活動の目標を共有し、評価と改善を繰り返しながら互いに高め合い、支え合えう同僚性を大切にする。
- ・教職員個々がチーム学校を意識し、確かな教育実践で学校経営に参画する。

3 危機管理意識の向上を図る

- ・日々の生活において教育公務員としての自覚をもち、不祥事を根絶する。
- ・様々な事象において、常に当事者意識をもち、迅速かつ慎重な対応を心がける。
- ・業務改善を意識し、ワークライフバランスを大切にす。

「共創」を目指す学校づくり

熊坂地域づくり協議会

コミュニティー・スクール運営協議会

PTA (父母と先生の会)

市内小・中学校、義務教育学校

市教委等関係諸機関

「共創」…多様な立場の人たちと対話しながら、新しい価値観を共に創りあげていくこと。